

# 大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例 「昭和42年（1967年）7月8日～9日の大雨」

## 北摂地域で豪雨 ～床上、床下浸水などの被害発生～

### 【概況】

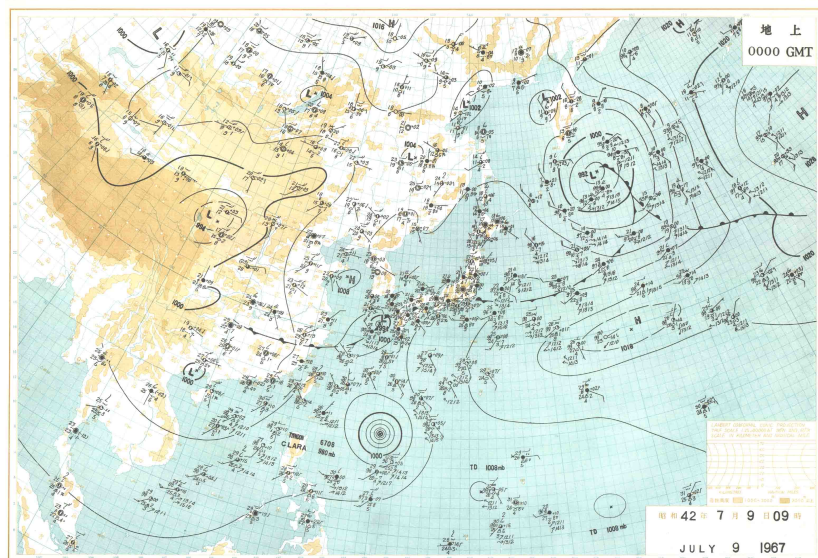
本州の南岸に停滞していた梅雨前線に、台風第7号から変わった熱帯低気圧から暖湿気流が流れ込み、前線の活動が非常に活発となった。7月9日には、熱帯低気圧から変わった温帯低気圧が前線上を九州北部から関東まで速い速度で進んだ。広島県呉市や神戸市では1時間70ミリを超える非常に激しい雨を観測し、大阪でも7月8日から9日の期間に150.1ミリの雨を観測した。神戸市など、背後に山地がある都市部で大雨となったため、土砂崩れや鉄砲水が多発し、人的被害や土木関係の被害が非常に多くなった。また、猪名川支流の最明寺川（右支川）で約300メートル、千里川（左支川）で約350メートルにわたって決壊した。

気象庁は、7月7日から10日までの大雨を「昭和42年7月豪雨」と命名した。

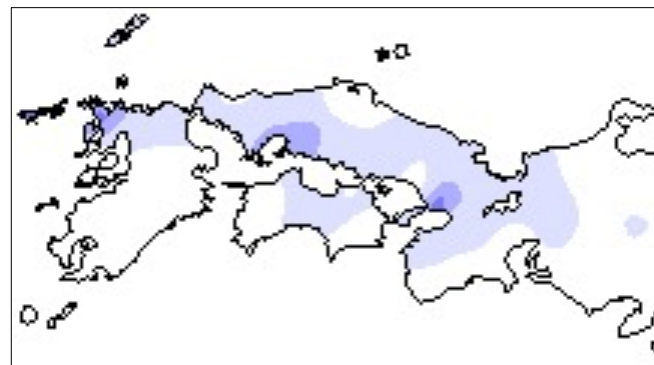
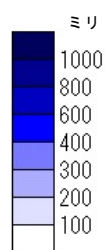
この大雨の影響で大阪府内では、以下の被害が発生した。

人的被害：死者5名 住家被害：家屋全壊 62棟、家屋半壊110棟、床上浸水16,684戸、床下浸水 119,976棟

（被害状況：大阪府ホームページ「大阪府を襲った主な災害」より）



地上天気図 7月9日09時



期間降水量（7月8日～9日）

期間降水量（7月8日～9日）  
（近畿地方）

地点名	期間降水量
大阪	150.1ミリ
神戸	361.1ミリ
姫路	82.5ミリ
豊岡	104.9ミリ
京都	200.8ミリ
舞鶴	101.9ミリ
彦根	121.9ミリ
奈良	124.6ミリ
和歌山	154.2ミリ